小学校体育ボール運動領域におけるルールの簡易化に関する一考察

塩沢輝大　（　新潟大学　）

1．目的

小学校において行われているルールの簡易化をしたゲームについて、実践報告の中ではそれぞれの機能が明示されていない場合もある。そこで本研究では、体育を専門としない教員でもゲーム教材を扱う際に、目的をもってルールを選択して、授業で指導ができるようにするために、ルールの簡易化の機能を明らかにすることを目的とした。

2. 研究方法

論文検索サイト『CiNii　Research』を用いて「小学校　○○型ゲーム」で検索した結果 85 件から、それぞれの型で 10 件ずつ抽出し、学校現場で行われている簡易化を把握し、それを基に明治図書『楽しい体育』での実践報告(全 47 件)でその機能についての分析を行った。

3. 結果と考察

まず、型表記への変更はゲーム内ですることを理解していれば、運動への意欲が高まるという戦術学習の考え方に基づいたものである。現行の小学校学習指導要領の表記から各型における戦術学習の内容は、ゴール型は「ボール操作やボールを持たない動き」、ネット型は「個人やチームによる攻守」、ベースボール型は「ボールを打つ攻撃と隊形を取った守備」であると分かる。

図 1 は、それぞれの型における戦術学習内容のゲーム場面での位置づけを示したものである。

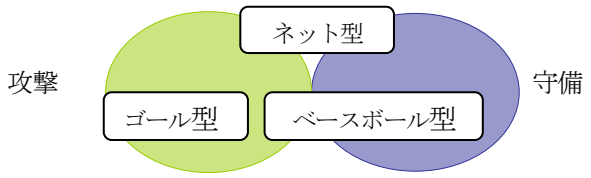

図 1　各型の戦術学習の位置づけ

次に、文献調査によって授業で行われている簡易化には共通して多く扱われているものが見られた。

ゴール型では「アウトナンバーゲーム」「フリーゾーンの設定」といった、攻撃側が有利な状況を創るものが多かった。これは、攻撃側の数的有利やボール操作中の空間的余裕を創り、ボール操作をしながらの判断を行いやすくして、子供の視点を得点方法や攻め方に向けさせるためだと考えられる。

ネット型は、キャッチ、ワンバウンドといった「触球方法」の簡易化が行われていた。ミスによる得点が発生しやすいことから、守備から攻撃までの組み立ての技能を子供のレベルに合ったものにして、連携した攻撃を経験させるためだと考えられる。

ベースボール型はトス・ティーバッティングによって競技の中から「走塁対守備」という駆け引きのゲームを抽出している。全員が出塁することから、守備の時にどこでアウトを取るかというプレイ中の意思決定の機会を増やしていると考えられる。

これらの簡易化は図 2 で示したように子供たちの技能レベルにあったボール操作、ゲーム状況を創ることで、各型の戦術学習を可能にさせる機能を持っていると推察される。

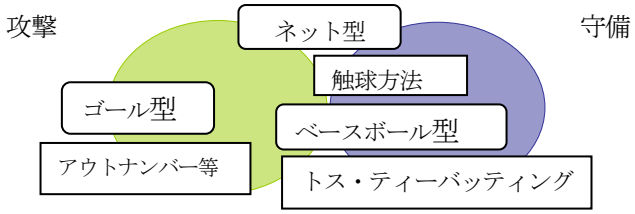

図 2　戦術学習内容と簡易化の関係

4. 結論

簡易化は、ゴール型では攻撃方法、ネット型では攻撃までの組み立て、ベースボール型は守備のアウトの取り方について等、得点に関係するプレイについての意思決定場面に機能していた。ボール運動領域においてルールの簡易化の機能は、得点を取るための方法やそのための意思決定を可能にさせ、戦術学習を伴ってボール運動領域の点を取る楽しさを味わうことに影響していると明らかになった。

5. 主な参考文献

岩田　靖,『ボール運動の教材を創る　ゲームの魅力をクローズアップする授業づくりの探求』, 大修館書店，2016　pp4-6